

令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立忍岡高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、経営企画室長、総務広報部主任、総務広報部担当 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、総務広報部主任、教務部主任、進路指導部主任、生活指導部主任、ホームルーム担任（2年次主任） 計8名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学教授)2名、大学関係者1名、地域産業界代表者1名、近隣自治会長1名、警察署員1名、近隣中学校長1名、近隣小学校長1名、同窓会長1名、PTA会長1名、 計10名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年6月（書面開催）
校長挨拶、協議委員委嘱、副会長・評価委員の選出、学校運営連絡協議会趣旨説明、今年度学校経営計画、本校の現状と課題について、事務連絡
 - 第2回 令和3年10月29日（金）内部委員8名、協議委員8名
校長挨拶、本校の教育活動、令和2年度学校評価案、意見交換、事務連絡
 - 第3回 令和4年3月（書面開催）
校長挨拶、学校経営報告、学校評価アンケート結果及び考察、本校の現状と課題
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年6月1日（火）内部委員2名、協議委員0名
基本方針、今年度実施の流れ、昨年度学校評価結果の確認
 - 第2回 令和3年10月28日（木）内部委員2名、協議委員1名
今年度学校評価の内容（昨年よりの課題について）
 - 第3回 令和4年3月3日（木）内部委員2名、協議委員0名
学校経営報告、今年度学校評価アンケート結果について

3 今年度の学校経営報告 資料1

4 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告） 資料2

- (1) 学校評価の観点
「学校運営」「学習指導」「生活指導」「進路指導」「特別活動」「健康・安全」「施設・設備」及び「地域・保護者等外部との連携」とする。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模（635人中）※アンケートフォーム利用
 - ・11月 全校生徒 635人 回収率 84.9%(12.5ポイント↓)
 - ・11月 保護者全員 242人 回収率 38.0%(29ポイント↓)
 - ・11月 地域住民 0人 回収率 0%（※町会内での未回収）
 - ・11月 教職員 34人 回収率 52.0%(37ポイント↓)
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、健康・安全、施設・設備、教員の働き方改革等の評価項目について、学校実態に合わせて適宜設定する。

5 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
コロナ禍における「学びを止めない」取組みについて、本校の学習環境、オンライン授業等の実施、進路指導方法の工夫や課題、広報活動の工夫等について協議委員、内部委員が協議をかさね、認識を共有した。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
効果的な学習指導と進路実績が比例する組織的な取り組みの一層の推進。
生徒指導の取り組み、防災教育における地域連携と高校生の役割への期待。

6 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
特になし。
- 8 その他
特になし。

資料 1

令和3年度 学校経営報告

基本方針 ◆生徒の安全と健康を第一優先する。

◆生徒の「学び」を支え、進路の実現に最大限の努力をする。

◆授業時間の確保を優先し、学校行事・部活動については、実施方法を検討し、延期や中止を含めて臨機応変に対応する。

目標と評価

1 学習指導

- ・主体的・協働的な学びについては、60%以上の授業で実施。
- ・ICT利用、オンライン等を活用した授業の実施率は71%。オンライン授業については、いつでも稼働できる教員が少ないため、今後も研修を重ねて対応する必要がある。
- ・教員相互の授業参観は49%。年次研修者を中心に展開したが、今後も継続が必要である。

2 進路指導

- ・進路方向が見つかっていない進路未決定者は2名。
- ・HPを活用した進路指導情報の発信を6回実施。今後は、進路情報の活用方法等の指導を展開する。
- ・四年制大学、短期大学への進学決定者100名以上。
- ・進路未決定者2名。今後も指導を継続する。

3 年間皆勤生徒20%以上

- ・各年次の皆勤者数は、3年31名、2年49名、1年31名であり、17.3%の生徒が皆勤となった。
(昨年度より、3ポイント減)

4 生活指導・特別活動

- ・適切なSNSの利用等、定期的な指導を展開しており、人権についても適宜指導に取り組んでいる。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、学校行事については、生徒が主体的に感染防止を念頭に、変更を検討して実施した。特別活動の充実について、肯定的意見65%。
- ・部活動や生徒会活動においても制限された中での活動となったが、部活動の加入率は昨年度並みを維持した。行事の継承と実行が必須である。

5 健康・安全教育

- ・生徒の発達特性に応じたケース会議を実施。専門医派遣事業等を活用し、生徒指導、保護者対応等について、共有を図った。
- ・感染症の状況悪化に伴い、防災教育については中止となった。

6 広報活動

- ・生徒募集については、新型コロナウイルス感染症対策のため、ICTを活用して実施。説明会等への参加者数は1261名。
- ・動画配信アクセス数は1万回を超えた。また、HPアクセス数は10万回と5倍増となった。

7 入試倍率

推薦、学力検査それぞれの倍率は以下の通り。 ※（ ）内は前年度倍率

<推薦> 普通科 2.25 (1.78) 倍 生活科学科 1.52 (2.67) 倍

<学力> 普通科 1.15 (0.97) 倍 生活科学科 0.61 (1.12) 倍

資料 2

令和3年度 学校評価アンケート結果分析について ※（ ）前年度数値

<回収率> 生徒 84.9(97.4)% 保護者 38 (67.0) % 教職員 52(89)% 地域住民 0 (100) %

1) 学校生活の充実度 【生徒：76% (66%) 保護者 83% (86%) 教職員 78% (61%)】

感染症の影響により学校行事の工夫がより一層求められる状況下であった。生徒発案による行事の工夫や試行錯誤をする中で、生徒の達成感や充実感を育成できたのではないかと考える。本校の教育活動に対する保護者の支援によるところは大きい。

2) 学習指導

授業の進度・理解度は、概ね肯定的意見が多いが、教員と生徒との間の差を小さくし、生徒の主体的な学びを推進できるよう、今後も研鑽に努める必要がある。中でも、オンライン等を活用した授業への取り組みについては、生徒、保護者、教職員とも現状に満足しているとは言えない。効果的な ICT の利活用、オンライン等を活用した授業研修など、改善を図り、「学びを止めない」体制を強化する必要がある。

伝統文化や国際理解教育については、7 限講座や語学講座により、概ね肯定的である。

3) 生活科学科の特色

生活科学科の特色については、概ね肯定的である。全学年を通して、割合も同様となっている。

教職員と生徒・保護者との間に捉え方の差が生じている。情報の発信方法等の改善を図りたい。

生活科学科では海外学校間交流としてフランスの服飾専門校「ポール・ポワレ校」と提携して3年になる。双方の生徒作品を紹介しあうなど交流を深めており、今後も国際理解教育を推進する。

4) 進路指導

進路情報の取得、進路指導体制については概ね肯定的である。しかし、高大連携の項目では、生徒・保護者の肯定的意見は半数以下である。感染症の拡大等により、計画通りの高大連携ができていない現状が原因の一つであると考ええる。

5) 検定の機会等

検定や資格取得への案内は、教室、学年掲示板、各教科担当からの声かけを行っている。検定等へのチャレンジは、生徒自身の勉強方法を見つめ直せる機会となる。また、諦めずに取り組むことで、生徒の意欲や関心を高めることにつながる。家庭の協力を得ながら、今後も取り組ませていきたい。

6) 生活指導

服装・頭髪や挨拶等の指導、部活動・生徒会活動は、すべての調査対象において 60～70%程度の肯定的意見となった。引き続き、地域とも連携しながら生徒を育てていきたい。

7) 健康教育・教育相談・人権・防災教育

健康教育においては半数以上が肯定的意見となっている。しかし、相談体制については、教員および保護者は半数以上が肯定的であるのに対し、生徒は半数近くにとどまっている。生徒自身、発信方法がわからずに悩みを抱え込んでいるのではないかと考えられる。心の声の発信方法や伝え方などを含め、今後も粘り強く継続して取り組んでいく。

人権教育、防災教育については、講演会や避難訓練等、年間を通して体制を整えている。今後はポイントを押さえて、生徒自身が考えることに注力して、指導をしていきたい。

8) 学校情報発信

昨年度より学校案内を刷新し、より分かりやすく親しみのあるものに変更した。生活科学科では独自のリーフレットを作成し、本校での教育活動を理解しやすいように変更した。

現在、HPの改良、SNS、YouTubeを活用した情報発信に取り組んでおり、在校生保護者も学校情報を入手しやすい方法を模索している。

9) その他

a) 保護者の参加・協力

今年度も保護者の活動は制限を受け、予定していた活動ができなかった。その中でも、会長を中心に、役員の方々は試行錯誤を繰り返しながら活動していただいた。

b) 地域連携

地域の中で高校生が担う役割は年々大きくなってきている。特に、防災活動における高校生への期待は大きい。地域振興への協力においては、地域の方々とも連携して活動を進めていきたい。

c) 施設設備

概ね肯定的である。誰でもトイレの利用方法など、検討すべきところは早急に対応していきたい。

10) 家庭学習時間

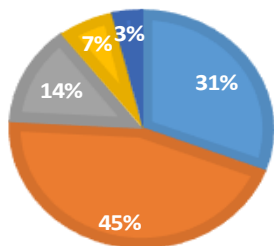
家庭学習の時間が2時間以上確保できている割合は、1年次生 5.4%、2年次生 5.5%、3年次生 23%である。家庭学習は基礎力の定着、予習による授業内理解の向上など、生徒の学力を育成する基礎となる。「3年になってから」ではなく、「1・2年のうちに」効率良く勉強する習慣を定着させられるようにしていきたい。

学校評価アンケート

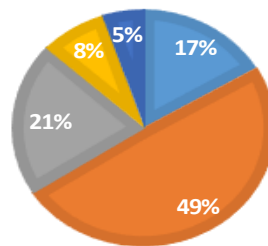
■ そう思う ■ いくらかそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

令和3年度 学校評価アンケート(生徒)

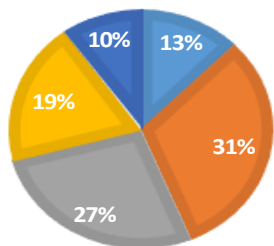
1 学校生活充実度 76%



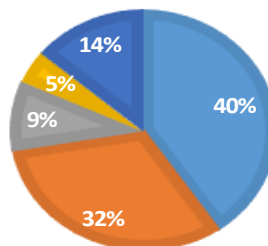
2 授業理解 66%



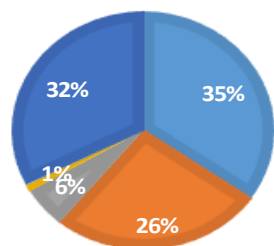
3 オンライン授業 44%



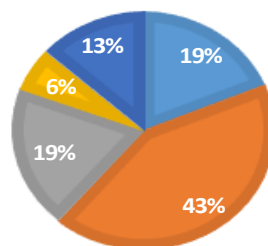
4 伝統文化教育 72%



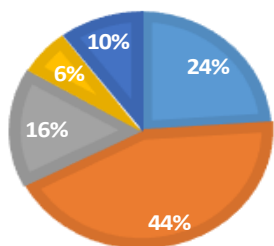
5 生活科学科特色 61%



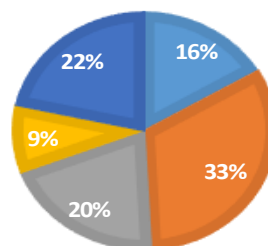
6 進路情報 62%



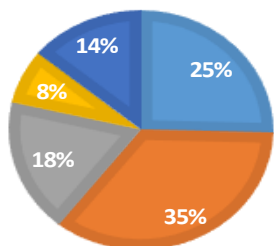
7 進路指導 68%



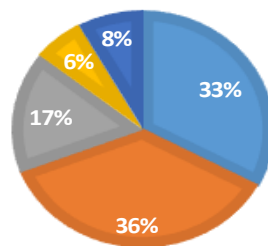
8 高大連携 49%



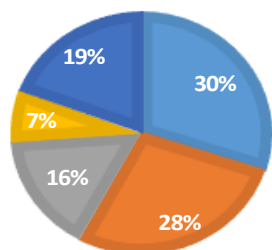
9 検定等の機会 60%



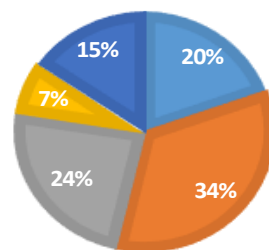
10 生活指導 69%



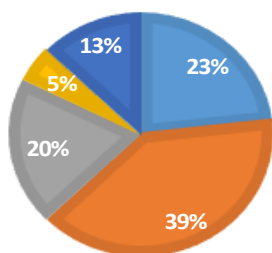
11 部活動・生徒会活動 58%



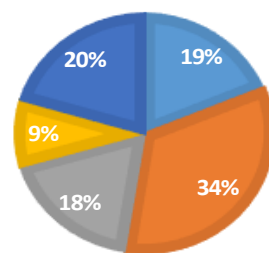
12 人権教育 54%



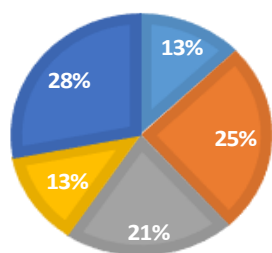
13 健康・安全教育 62%



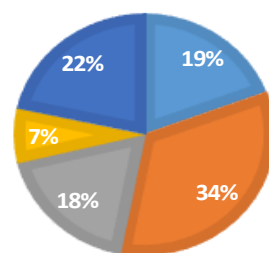
14 教育相談体制 49%



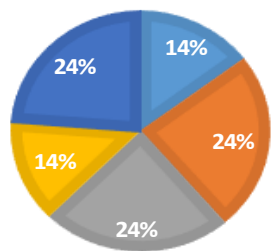
15 防災教育 38%



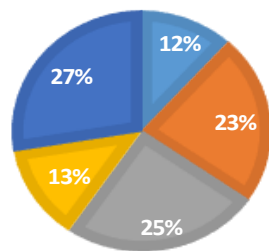
16 学校情報発信 53%



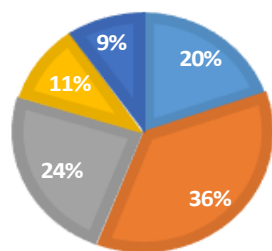
17 地域連携 38%



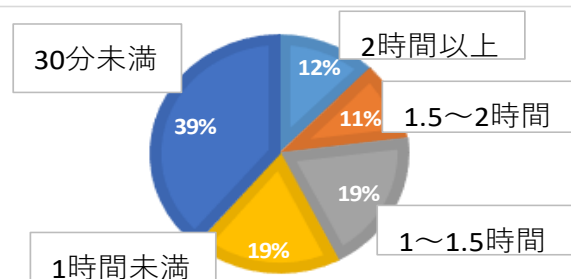
18 保護者参加 35%



19 施設・設備 56%

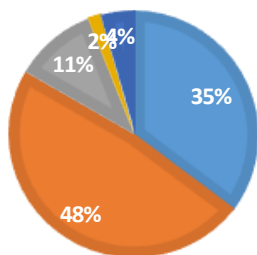


20 家庭学習時間

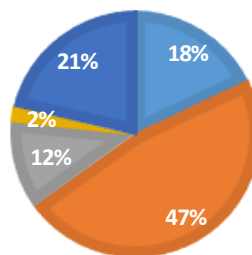


令和3年度 学校評価アンケート(保護者)

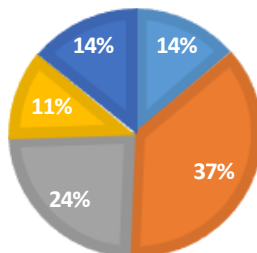
1 学校生活充実度 83%



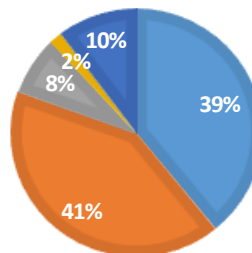
2 教科指導 65%



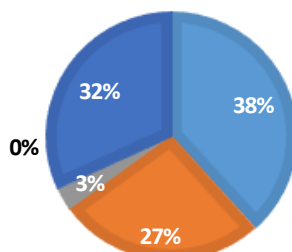
3 オンライン等授業 51%



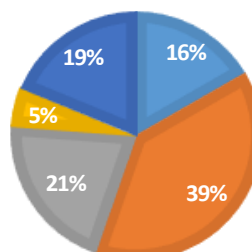
4 伝統文化・国際理解 80%



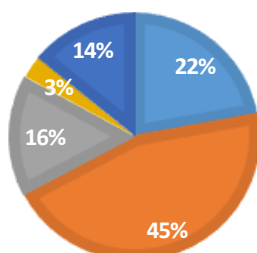
5 生活科学科特色 65%



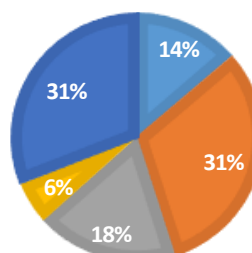
6 進路情報 55%



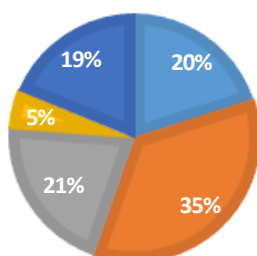
7 進路指導 67%



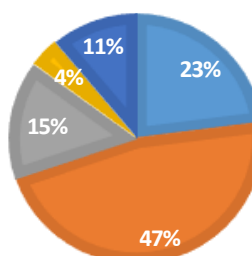
8 高大連携 45%



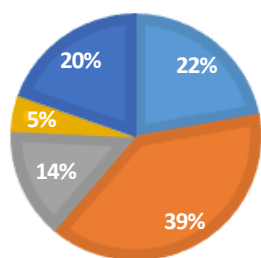
9 検定等の機会



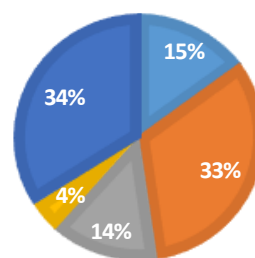
10 生活指導



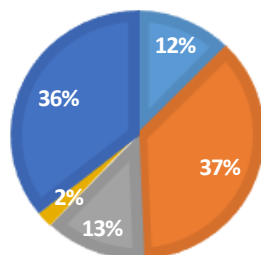
11 部活動・生徒会活動 61%



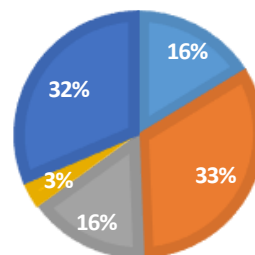
12 人権教育 48%



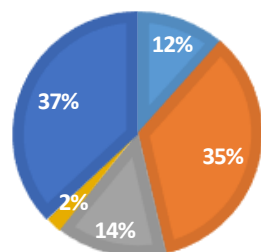
13 健康・安全教育 49%



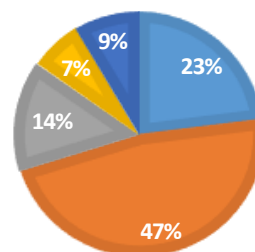
14 教育相談体制 49%



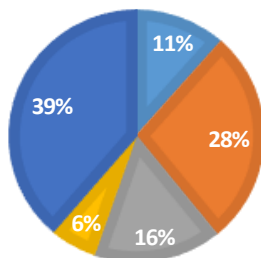
15 防災教育 47%



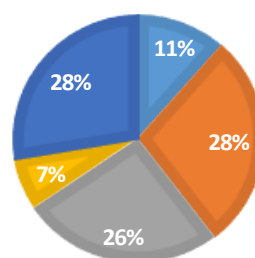
16 学校情報発信 70%



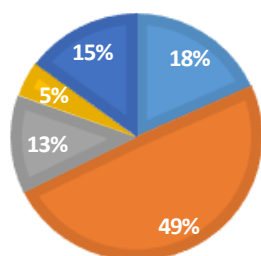
17 地域連携 39%



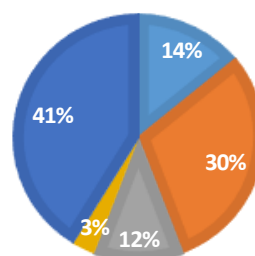
18 保護者の参加 39%



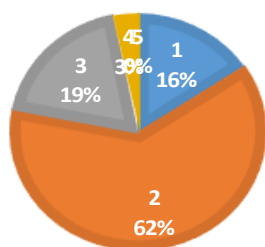
19 施設・設備 67%



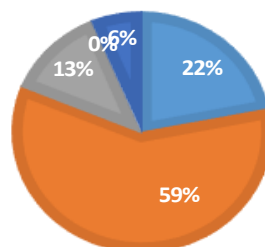
20 教員の働き方改革 44%



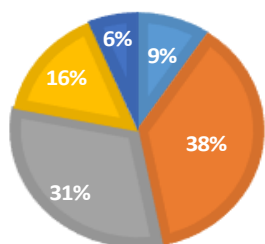
1 学校生活の充実度 78%



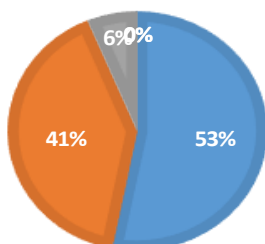
2 授業理解・進捗 81%



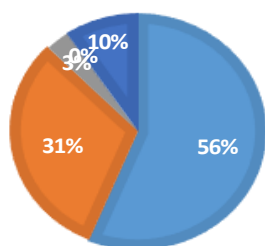
3 ICT等の授業活用 47%



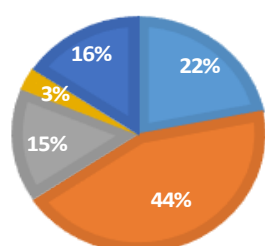
4 伝統文化教育・国際理解 94%



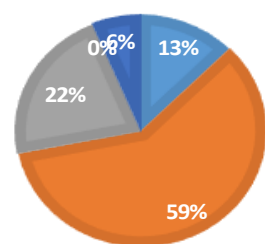
5 生活科学科・特色 87%



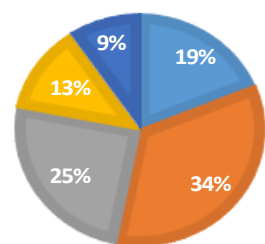
6 進路情報 66%



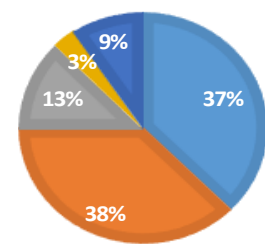
7 進路指導体制 72%



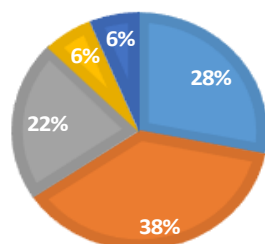
8 高大連携 53%



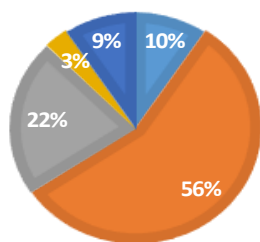
9 検定等への機会 75%



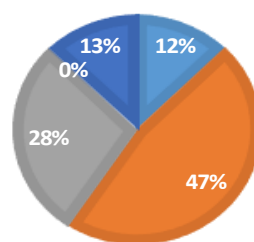
10 生活指導 66%



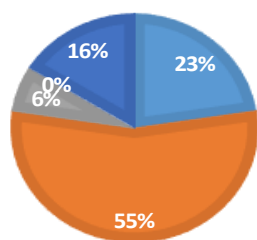
11部活動・生徒会活動 66%



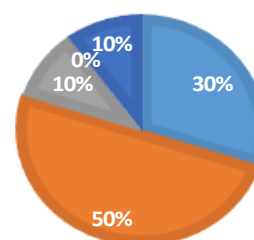
12 人権教育 59%



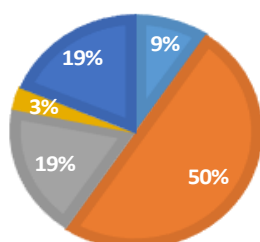
13 健康教育 78%



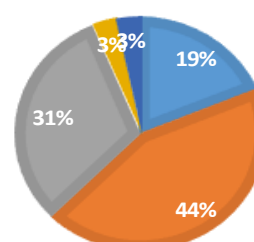
14 教育相談体制 80%



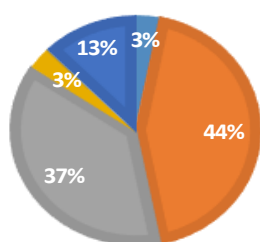
15 防災教育 59%



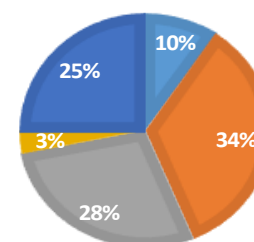
16 情報発信・PR 63%



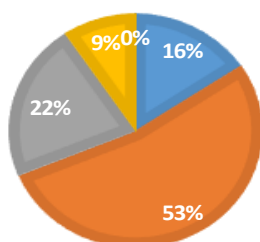
17 地域連携 47%



18 保護者連携体制 44%



19 施設・設備 69%



20 働き方改革 47%

